

「日本ミステリー文学展〜藤田宜永からの招待状〜」を振り返って

尾崎秀甫

福井県ふるさと文学館では、平成二十八年度夏の企画展として、「日本ミステリー文学展〜藤田宜永からの招待状〜」を開催した。この展覧会では明治期に海外のミステリー作品が持ち込まれ始めてから、現在のような文学の一ジャンルとして親しまれることとなった大きな流れを案内しつつ、福井市出身の直木賞作家・藤田宜永氏を中心に福井ゆかりのミステリー作家や文学作品を紹介するため、全三章により展覧会を構成した。

第一章では海外ミステリーを多数翻案し、「萬朝報」など新聞に連載することで日本にミステリー文学を紹介した黒岩涙香から、日本を舞台にしたオリジナルの探偵小説を生み出した江戸川乱歩、横溝正史、そして戦後における社会派ミステリーの大きな流れを作った松本清張までを概説し

た。資料としては、江戸川乱歩筆「うつしよは夢」色紙や「探偵小説ツリック分類表」（複製）、横溝正史「八つ墓村」自筆原稿、松本清張「点と線」原稿（複製）などを展示。日本ミステリー文学の黎明期と言える乱歩以前の時代から社会派作品の出現まで、諸所に保存されている貴重な資料によって紹介することができた。

第二章では、福井県を舞台とするミステリー作品と作家たちを紹介した。県内には東尋坊や芦原温泉、小浜の人魚伝説など、ミステリー作品の舞台、モチーフとなった景勝地や伝説などが多くある。展示では、作品の舞台について作者自身が語った書き下ろしの自作解説原稿のほか、作品名と舞台地名を併記した「福井県ミステリー文学マップ」を作成し俯瞰できるよう床面に配置した。また、横溝正史

作品の表紙絵を数多く手がけ、横溝ブーム到来の一翼を担った本巣越前市出身の画家・杉本一文氏の原画と文庫本を合わせて展示。杉本氏のおどろおどろしい表紙絵は、横溝作品の顔として多くの読者の印象に残っていると考えられる。しかし、県内から来館した横溝ファンも杉本氏の出身地を知っている人は多くなかったようで、福井とミステリー作品の意外なつながりを知ってもらうきっかけとなったように思う。

そして最後の第三章では、福井県出身で現役の直木賞作家である藤田宜永氏の足跡と作品世界を紹介した。「探偵・竹花」シリーズや「モダン東京」シリーズなど、昭和初期から現代までの日本を舞台に私立探偵を主人公にしたハードボイルド作品を書いてきた藤田氏は、時代背景や風俗描写など、物語にリアリティを出すための表現にこだわる作家である。インタビュ映像撮影のため軽井沢の自宅に伺った際に見た書齋は、昭和期の住宅地図や新聞記事、グラフィ誌や専門誌など、執筆のための参考資料で埋まっていた。これらの執筆資料に加え、作家を志すきっかけとなり、現在もたびたび読み返すという吉行淳之介の単行本など、作家の軌跡を知る上で重要な資料を多数お借りし展示することができた。また、なかなか見ることがない書齋風景を

引き延ばした巨大パネルで壁面を覆い、作家の創作現場を体感してもらう仕掛けとした。近況を語っていたアイデアインタビュー映像と合わせ、現役作家ならではのライブ感ある展示空間になったのではないだろうか。

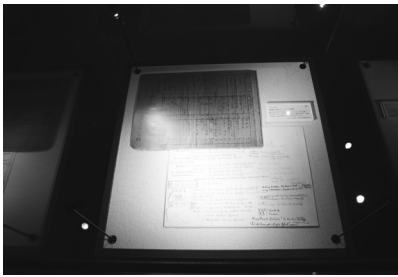
本展覧会では展示テーマやその内容から、推理小説やハードボイルド小説などのミステリーファンを主なターゲットにしていたが、会期中が夏休みということもあり、中高生や家族連れも多く見受けられた。来館者からのアンケートには「江戸川乱歩や横溝正史の直筆の原稿に感激しました」「ミステリーものが大好きだった祖父の影響で、横溝先生の本を小学生の頃から読んでいました。懐かしい思い出がよみがえりました」といったミステリーファンの感想がある一方で、「福井にゆかりのある作家、又、福井を題材にした作品が多いのに驚きました」「ミステリーの舞台となった土地を訪ねてみるのも良いなと、地図を見て思いました」など、改めて福井の歴史や風土に目を向けた来館者も多かったようだ。

そんな中、乱歩、横溝ファンと思われる父親が、展示資料や作品について自分の思い出を交えながら二人の娘に細かく説明しながら歩く光景が強く印象に残った。文学作品や作家の生き方を通し、世代を越えて感動や気づきを共有

することは、文学を味わい愉しむ上で非常に重要なことである。本展の観覧者がこのような文学の愉しみ方を知ったとすれば、それは多くの作家たちが様々なスタイルで書き継いできたミステリー文学というジャンルが、現代の読者にとっても大きな魅力を持っているからに違いない。「日本ミステリー文学展」と少し大仰なタイトルではあるが、そんなミステリー文学の魅力の一端を改めて伝えることは出来たように思う。

本展開催にあたっては、貴重な資料を多数ご提供いただいた立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター、世田谷文学館、藤田宜永氏をはじめ、平井憲太郎氏、野本瑠美氏など作家ご遺族や、有栖川有栖氏、笠原靖氏、桂美人氏、斎藤栄氏、西村京太郎氏、水城雄氏など本展への寄稿を快諾いただいた作家の方々、ミステリー関連出版社の編集者の方々など、ミステリーを愛する熱心な人々のご協力・ご教示が不可欠であった。広報に関しては、福井市在住のイラストレーター・yukin氏が描く、ミステリー文学のイメージを見事に表現した魅力的なポスターイラストの力が大きかった。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

(福井県ふるさと文学館 学芸員)



江戸川乱歩「探偵小説ソリック分類表」(複製)



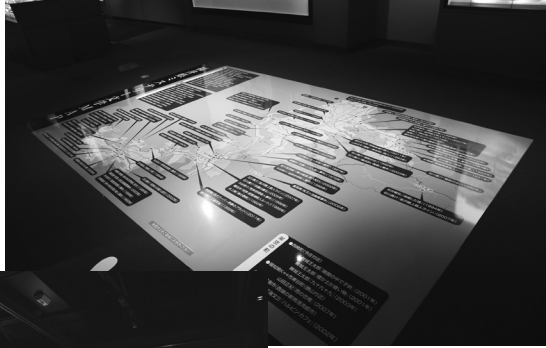
展示会場全景



杉本一文氏原画と横溝正史作品の展示



黒岩涙香、江戸川乱歩展示コーナー



福井県ミステリー文学マップ



書斎再現と愛用品の展示



藤田宜永氏展示コーナー



展覧会チラシ (イラスト：yukim氏)